

笠間市の夜間・休日診療について

— 安定した地域医療連携に必要な処方箋 —

笠間市立病院長 石塚恒夫

4月1日より、笠間市内の医師・薬剤師、県立中央病院の医師・看護師・薬剤師の方々の協力の下に、平日夜間（午後7時から10時）と日曜日（午前9時から午後5時）の一次診療が笠間市立病院で行われます。今までは市内医療機関の輪番制で日曜・祝日のみの対応でしたが、平日夜間にも拡大されました。年末年始を含んだ祝日は従来の輪番制が残ります。一次診療では軽症患者さんに応急的な処置をし、重症であると疑われる患者さんは県立中央病院等の二次医療機関に紹介します。インフルエンザ等の迅速診断キットは使用しますが、基本的に採血やレントゲン検査は行いません。

この背景には県立中央病院の医師の疲弊があります。県立中央病院は断らない救急を旨とし、周辺市町村からの二次救急患者が増加しています。しかし軽症患者の受診も多いためその対応が困難になっています。そもそも一次診療は各市町村の役割であり、笠間市が

体制を整える必要があります。当初は県立中央病院内で一次診療を輪番で行うことも検討されたのですが、一次診療と二次診療を明確に区別するため、に当院で行われることになりました。

つまり皆さんには、重症（救急搬送を必要とするような）であれば最初から県立中央病院を受診してもらいますが、軽症であればとりあえず夜間・休日外来を受診してほしいのです。小児医療に関しては、水戸とは異なり笠間市には小児科医が少なく、二次医療機関の受け入れも不十分です。現状では基本的に小学生以上を診療対象にします。しかしできるだけ多くの医師に参加してもらおうために、診療対象は担当医師の判断に任せています（15歳以上とする日もあります）。決して患者さんにとって便利になった面ばかりではありません。けれども安定した地域医療を守るためには皆さんの協力が不可欠なものです。よろしくお願い申し上げます。

笠間には、全国でもトップクラスの技術を持つ企業がたくさんあります。このコーナーでは、より良い製品づくりを目指して研究・開発に取り組む市内の企業を紹介します。

笠間のがんばる企業紹介

（株）アンペール 友部事業所

東京都新宿区に本社を置く（株）アンペールは、電子機器の開発・製造を手がけています。鯉淵地区にある友部事業所で、草柳高志（くさなぎたかし）代表取締役社長にお話を伺いました。

— どのようなものを製造しているんですか？ —

「産業機器に搭載されるマイクロコンピュータ（ボードコンピュータなど）を製造しています。また、ヘッドホンとマイクを使って英語の聞き取り・発音を身につけるLL（Language Laboratory）システムの開発・販売も手がけています。当社のLLは省エネ性能と使いやすさが評価され、100か所以上の学校や教育施設に採用されています。」

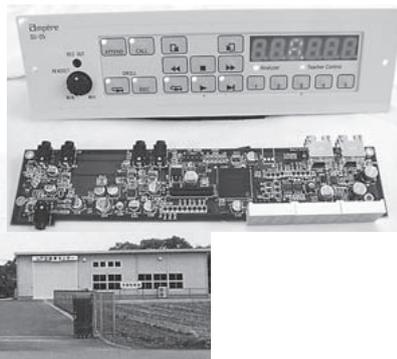
— 得意な分野について教えてくださいいただけますか？ —

「コンピュータによる計測制御技術です。コンピュータは人間で言えば脳ミソに相当しますが、当社は目や耳（計測）、手足（動作）の役割をするエレクトロニクス技術を重視しています。これにはハードウェアとソフトウェアをうまく統合する必要がありますがあり、長年培ったノウハウが不可欠です。当社では『リアル・ワールド技術』と呼んでいますが、机上の空論ではなく、

私たちが暮らす現実の世界としっかり向き合いながら開発をしています。先に挙げたLLも、生身の人間の声を扱うという点で、リアル・ワールド技術が最大限に活かされています。」

— 人間と機械の橋渡しをしているんですか？ —

「はい。これからも、『技術を通じて社会の健全な発展に貢献する』という経営理念のもと、皆様のお役に立てる企業でありたいと考えています。」



（左）工場外観（右）LLと内蔵基板



（株）アンペール 友部事業所

従業員数▼34人

※文責▽笠間市役所企業誘致推進室（内線228）